

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方策
○子どもが喜んで登校する学校 ○かしこく心豊かな子ども ○子ども、保護者、地域に信頼され、それに応えようとする教員		学力向上	○やにシタイムでのクロームブックの活用 ○学習規律の徹底 ○少人数分割授業の推進
		規範意識の向上	○共通実践によるもくもく掃除、靴のつま先そろえの徹底 ○学年・学級の垣根を越えた組織的な生徒指導
		自尊感情の向上	○「ほめて伸ばそうやにしっ子」の推進 ○「ありがとうの木」の取り組みの保護者、地域への拡充
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の育成	学習規律(1分前着席・黙想、あいさつの仕方、学習用具)の確立(教員の自己評価90ポイント以上)	○教員の自己評価85ポイント。いっそうの徹底を図る必要がある。 ○教員の自己評価100ポイント。期待以上の定着度だった。 ○シヤッフル読み聞かせは、年間6回計画したが、コロナの感染拡大により、実施できたのは2回だった。 ○コロナ禍のため、例年より遅い11月中旬から実施した。2月21日時点で、157枚の合格証を発行。	
	やにシタイムの共通実践(読書)の徹底(教員の自己評価85ポイント以上)		
	学年シヤッフル、全校シヤッフルによる読み聞かせを行い、読書意欲を高める。(年間各2回)		
	校長室検定(暗唱、国旗、都道府県、百人一首)を行い、学ぶこと、やり通すことへの意欲を高める。		
規範意識の向上	もくもく掃除の徹底(教員の自己評価90ポイント以上)	○教員の自己評価95ポイント。「出張おそうじ鑑定団」の取り組みを並行して進めることで、子どもの意欲が高まってきた。 ○教員の自己評価100ポイント。報告・連絡・相談が確実に行われている。	
	学級・学年の垣根を越えた組織的な生徒指導(教員の自己評価90ポイント以上)		
	0		
自尊感情の向上	学校、家庭、地域で連携して子どもをほめて伸ばす取組の実施(教員の自己評価85ポイント以上)	○教員の自己評価100ポイント。それぞれの立場で、工夫しながら取り組んでいる。 ○教員の自己評価80ポイント。教職員によって偏りが見られる。	
	「ありがとうの木」の実を教員が月に1回以上書く。(教員の自己評価85ポイント以上)		
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			

○課題に対して、学校が一丸となり取り組まれている。徐々に成果が上がると思われる。

○コロナ禍で、学習の遅れや体力が気になります。先生方も、いろいろと工夫されていることと思います。子どもも大人も、笑顔あふれる町になればと思います。

○コロナ禍の中、実績が得られることとむずかしいことの落差が、よりはっきりしてきたように感じました。感染が低年齢にも拡がる中、児童・生徒対象のワクチン接種も始まりましたが、安全性や副反応への不安は解消されておらず、学校としてもご苦労が多いことと思います。少しでも早いポスト・コロナの到来を祈るばかりです。

○新型コロナウイルスの影響がまだ続く中、いろいろな取り組みを考えてくださり、ありがとうございます。読み聞かせが復活する日を楽しみにしています。

○コロナ感染防止対策に追われる中で、学校行事、学習の取り組みにたいへん苦慮されたことと思います。達成度ABCランクと評価ポイントとの兼ね合いがわかりにくいのですが、取り組みの成果が出ていると思います。スクールガード、5000人キャンペーン時における高学年の返しのあいさつが少ない。

○コロナ禍の中、通常の学校生活や活動ができず、先生方はたいへん苦勞されていることと思います。そのような中、工夫しながら活動を実施されています。この先がどうなるかわかりませんが、地域とともに安心、安全な校区になるよう協力したいと思えます。

○学力面では、コロナ禍のため十分な活動がむずかしくなっているようで、この課題は続けるほうがよいと思います。読書の徹底は、とてもよい活動になっていると思います。自尊感情は、コロナ禍で、家庭でほめて伸ばすことが重要になっています。保護者間で、子どもの状況を教え合い、よりよい教育現場になるようにしていかなければならないと思います。

○達成度Cの評価については、長いコロナ禍において、子どもたちがたいへん不安な生活を送っている様子がよくわかります。先生方の指導に感謝いたします。一日も早くコロナが終息し、楽しい学校生活が過ごせるよう願っています。公園等で子どもたちの元気な声や姿が見られず、寂しい思いをしています。スクールガードで元気なあいさつをしてくれる子どもが多く、我々が元気をもらっています。

○暮らしの中で、普通や当たり前がわからなくなりました。コロナ禍の取り組みで、子どもたちに伝えるむずかしさがよく表れた報告書だと感じました。先生方の自己評価のずれは、お互いの思いやり方をすり合わせる場が限られてのことと思いますが、この偏りは、今は小さくても心配です。偏りがなくなっていくよい策が見つけられたらと思います。

○コロナ禍のため、例年通りはむずかしい面があったのではないかと感じられる。その中では、よくがんばっているのではと思われる。「ほめて伸ばそう やにしっ子」は、先生と子どもだけでなく、地域や家庭でもっとほめてやれば、子どもも変わっていくのでは。「ありがとうの木」の取り組みの地域への拡充は、協力していきたい。